

- 1 派遣期日 平成23年10月12日（水）
- 2 研修先 学校名 千葉県習志野市立大久保小学校
所在地 千葉県習志野市藤崎6-9-28

3 研修内容

第36回国語公開研究会

研究主題 共に学び合い言語文化を創造する国語学習
一創作の授業づくりを中心として一

(1) 公開授業参観

○第2学年 「2年生が昔話をつくったとさ」

むかしむかしからはじまる創作文・昔話を書く授業

①めざす子ども像にせまるための手立て

低学年 めざす子ども像

よいところを伝え合いながら、目的に応じて読み、空想や想像をふくらませ
新たな言葉を見つけたり集めたりして創作する子

ア日常の読書生活の耕し

- ・朝の読書や日常の読書で、読むことに慣れ親しめるようにする。
- ・昔話を読む、登場人物を読む、その他の表現描写を読むといった目的や意図に合わせ多読させ、自信の創作に活かせるようにしていく。

イ協同的な学び合いの場の設定

- ・創作メモを基に、自分の創作の構造を説明したり、質問し合ったりする場を設けていく。また、共感してもらうことで、自信をもって創作に臨めるようにしていく。話し合いの仕方や質問の仕方を教師演示で見せる。それに沿ってどの子も質問ができたり、応答ができたりするようにしていく。

ウ言語文化にふれるような言語活動の工夫

- ・1学期に引き続き昔話シリーズ作品を取り上げる。その中でも構成、人物描写、テーマ性、情景描写などの目的や意図に応じ、どの子も確実に読めるようにしていく。
- ・子ども達の創作の手本となり、教師の評価の規準として子ども達に書かせたい要素を盛り込んだ教師の見本を提示する。

エ言葉の力をつけるための支援・評価の工夫

- ・単元の最後に、自分の学びを振り返り、昔話の魅力や、創作のために大切なこと、自分が学んだことや身につけた知識や技能が何かをまとめる場を設定する。
- ・教師は、創作途中のワークシートや作品、振り返りの内容といった言語活動で表現された活動成果から子ども達の学びを評価する。特に創作作品は、評価規準を内包している教師の見本と照らし合わせ、何がどこまでできたかを具体的に評価していく。

②単元の目標

言語活動：昔話の「悪ものたいじの話」や「正直者が得をする話」をもとにした物語創作活動をする。

③本時の指導（12時間扱いの第6時） 指導者 永本 初枝教諭

ア目標 教師がつくった昔話を聞いて、物語の構成や表現方法を理解し、作品をつくりたいという意欲と見通しをもつことができる。

イ授業の様子

友達の読み聞かせ（「したきり雀」「おむすびころりん」）を聞き、共通しているところを見つける。静かに読み聞かせを聞き、似ているところを発表している。挙手ではなく、自由に発言している。事業に集中して取り組んでいるので、関係のない発言はない。

「正直者が得をする話」の物語の組み立てを知る。いろいろな昔話に登場する正直者と欲張り者の対比をする。（人柄・性格・立場・行動・手にした物・おもしろい表現・オノマトペ等）

正直者・・・働き者・欲がない・やさしい・宝をもらう・得をする

欲張り者・・・怠け者・欲張り・意地悪・がらくたをもらう・損をする

「おむすびころりん」「したきりすずめ」「はなさかじいさん」などの登場人物を比較して自由に意見を述べている。

「正直者が得をする話」の教師の見本を聞き気づいたことを話し合う。教師がつくったみつばちを助けた話を聞く。聞きながら「わかった。」「同じだ。」などつつぶやく児童が多かった。話の構造がつかめていたようである。

つくろうとする昔話の構想について考える。ノートに自分の書きたい昔話について書く。思いついて事を自由に書いている。友達と見せ合いながら楽しそうにかつどうしていた。

④本時の指導（１２時間扱いの第１０時） 指導者 猪俣 備前教諭

ア目標 本の構成を知り、自分だけの本の題名を考え、本づくりへの意欲を高めることができる。

イ授業の様子

教師の見本の本を見て、学習の見通しをもつ。「先生達もやってみたよ。」とそれぞれのクラスの担任がつくった本を見せる。題と表紙の絵を見せて、どのクラスの先生の作品かを当てる。特徴をとらえながら、楽しそうに推理していた。

内容が同じでも、題名が違う本を提示し、印象が違うことに気づかせる。「楽しそうだ。」「読みたいと思うのは、楽しそうな方。」という意見が多かった。

児童の発言から、話したい、早くつくりたいという意欲が感じられた。読み聞かせにむいている話はどんな話なのかほとんどの児童がとらえていた。

自分の本の題名を決める。思いつくままにいくつも書いている。迷っている児童は、友達に考えた題名を見せ、アドバイスをもらっていた。学習の流れが掲示してあるので、次に何をやるのか児童がわかっており、スムーズな展開であった。

4 感想

今回の研修で「多読・多作・子どもが読んできた物が多ければ、物語の構造を理解できるだろう。」ということがよく分かった。どの教室にも今の学習に関連している図書や教師が児童に読ませたい図書がたくさん置いてあった。また、掲示物も、昔話づくりに関連のある物（オノマトペ・昔話に登場する動物について）などがあつた。また、１学期に児童がつくった昔話の本が自由に読めるようになっていた。このような環境の中なので、意欲も持続するのだろうと感じた。また、参観したどの授業も、教師のつくった見本があつた。子どもたちの目線になりつくすることで、子どもがどこで迷い、何が分からないのかがはっきりするということであつた。授業で支援するときも、有効な手立てがわかるだろうと感じた。教師がその授業で何を学ばせるのかをはっきりさせるという意味でも、とても大切なことである。

今後は研修をいかして教材研究をし、環境も整えていきたい。また、教師の見本をつくる大切さも学ぶことができたので、単元を選んで取り組んでいきたい。